



首都圏の南回りバイパス機能を強化 (災害等の非常時に代替機能を発揮)

東京湾アクアラインの開通により、東名高速方面からアクアラインを經由して南を回り、東関東自動車道や常磐自動車道に入るといった新しいルートが形成。さらに、首都圏中央連絡自動車道の延伸に伴い、ネットワークとしての機能が強化。

《東日本大震災の例》

東日本大震災において、千葉県内では液状化等により、住宅やライフラインなどに被害が生じたほか、道路・河川・海岸・港湾等の公共土木施設に甚大な被害が発生しました。交通ネットワークにも混乱が生じ、**首都高速湾岸線 新木場～葛西間の通行止めが3月22日午前3時に解除されるまで、アクアラインが重要な代替ルートとして活躍。**

東日本大震災発生
首都高速湾岸線
11日間通行止め

混乱を回避するため
アクアラインへ迂回
代替機能を発揮

アクアラインが
首都圏の
交通ルートを確保

【利用実態】

○アクアラインの大型車交通量が増加

震災発生前 約8,000台/日	▶	震災発生後 約9,100台/日 (約15%増加)
--------------------	---	-----------------------------

○千葉・東関東道方面～川崎・横浜方面間の大型車利用が増加

震災発生前 約270台/日	▶	震災発生後 約1,560台/日 (約1,300台増加)
------------------	---	--------------------------------

※震災発生前 (H23年3月7日～10日) 震災発生直後 (H23年3月14日～17日)



出典：千葉県

あなたに、ベスト・ウェイ。



東京湾アクアラインが人と人をつなぐ! オリジナルアニメ
「ありがとう20年、そしてこれからも」を今すぐCHECK!!

